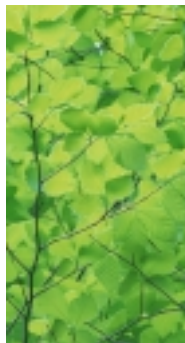


須坂市立旭ヶ丘小学校（長野県）



1. 地域特性

須坂市（人口約5万4千人）は、長野県の北東部、長野市の東に隣接する。地形は、東部の山間部から千曲川へと緩やかな傾斜が続く扇状地となっており、りんご、巨峰などの果樹栽培が盛んな地域である。

外観北西面（改修前）



2. 事業の経緯

団地の造成に伴い昭和46年に建築された校舎は、老朽化が進行し、特に屋根や外壁からの雨漏りが至るところで発生し問題となっていた。また、平成11年度に校舎の耐震診断を実施し、全体的に補強が必要であることが判明した。

そのため、校舎の耐震補強工事に併せて大規模な改修工事を平成14年度から平成15年度の2年間で実施し、耐震性の確保と機能改善が図られた。



外観北西面（改修後）



昇降口（改修前）



昇降口（改修後）



多目的室

3. 事業の内容

○日常の利用の検証

改修計画において、教員が積極的に関わり、日常の各室の利用を検証し、スペースの配置換えや再配分が提案された。例えば、図書室は、普通教室から離れた場所から校舎の中心に近い昇降口付近へスペースを拡張して配置された。図書室があったスペースは、地域開放用の玄関に近いことから、地域住民の利用も考慮した多目的スペースを新たに整備された。利用の高いパソコン室は、教具室・倉庫を集約してできたスペースを取り込み拡張された。

○環境にやさしい学校づくり

屋根と外壁からの雨漏りを防ぐため、庇のある屋根に葺き替え、外壁上部は金属板を張り防水性を向上させた。葺き替えた屋根には、太陽光発電設備（5kw）が設置されている。子どもたちは、昇降口に設置された表示パネルより発電容量を確認することができる。

○地域開放への対応

地域との交流を考慮して、既存の地域開放用玄関付近に多目的スペースが整備された。また、使用がほとんど無い暗室が多目的トイレとして改修された。これらの周囲に地域へ開放している特別教室が集約され配置されており、管理上も配慮された計画となっている。

また、地域の文化・伝統を伝える郷土室は、より意識できるように廊下との壁を取り払い、空間的に連続させ、日頃から地域性を感じることができるよう工夫された。

4. 成果と課題

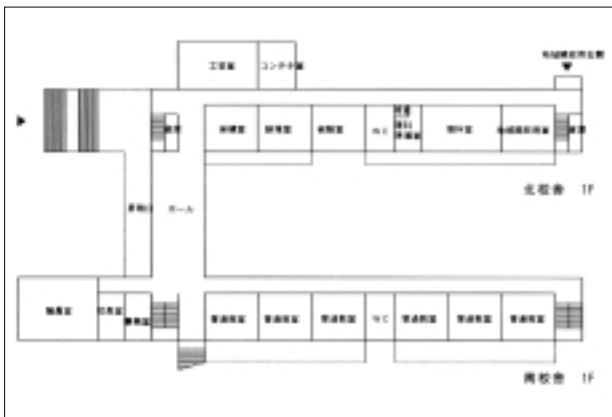
内装の木質化による温かみ、照明器具の改善による明るさの確保は評判が高い。

工事期間中も行政、学校関係者、請負業者等において週に1度協議の場を設け、工事中の安全性確保の検討の他、改修計画を検証しながら施工を行っており、関係者が一丸となってよりよい教育環境を創り出そうとしていた様子が伺える。

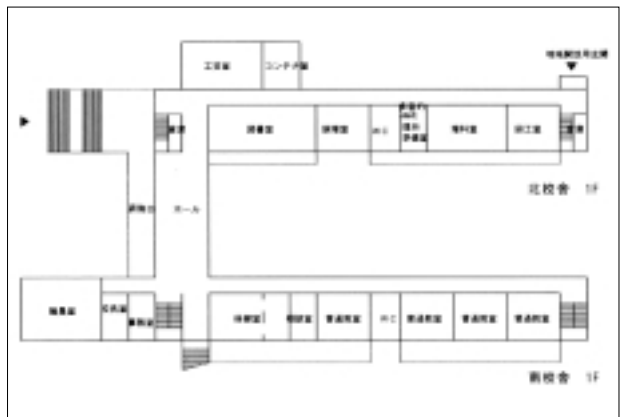
地域開放を積極的に行っているが、高齢者にとって上下階の移動が不便なため学校の利用を敬遠しているという声もあり、バリアフリー対策が今後の課題となっている。



郷土室・廊下



各階平面図（改修前）



各階平面図（改修後）